

黒川清同窓会会長からの挨拶



UCLA同窓会の皆様、いつも同窓会のための活動に感謝しています。

UCLA同窓会会長に就任させていただいております黒川です。今年は東日本大震災、

フクシマと難問が重なる日本でした。この数年間、同窓会として他のUniversity of California校の他キャンパスの同窓会の方たちとも会う機会を増やすように考えています。この数年、UCLA同窓会は若い人たちの活躍で活発になってきました。この連絡ネットワークを今後さらに広げたいと思っています。University of CaliforniaではBerkeley校(UCB)、Los Angeles校の同窓生が多く、共催の企画もあり、先日は

UCB同窓会会長の野中郁次郎先生と私の対談「震災後の日本のイノベーションはどうあるべきか」を開催しました。さらに以前にもインドの有名校であるIndian Institute of Technology同窓会とUCB同窓会とのジョイントの会合を開き活動の幅を広げています。UCLA本部との関係についても、この数年は非常に密接な関係を保っており、Chancellor Dr. Gene Blockが来日するたびに皆様とお会いする機会を作っていました。今年の12月にもChancellor Blockが来日されるようですので、これについてもご案内いたします。

UCLA Anderson Schoolは日本の同窓会の中では大きい母体です。AndersonのJudy Olian学部長が来られる度にお会いし、会合を開催しています。今年はAnderson School創設75周年ということで集まりがあり、同

窓会の結束がさらに強まっているようです。これからも、是非若手を含む同窓会幹事の方々、メンバーの方々が、他のUC同窓メンバーと連携し、UCLA同窓会としての活動を広げることを期待したいと思います。お忙しいとは思いますが、UCLAという同じ体験を共有するネットワークの活性化になにができるかお考え頂き、色々な活動への参加をお願いいたします。

また、University of California全体としての財団を日本でも設立したいという希望があり、これについても学生の留学、或いはお互いの交流、或いは教員などを含めた今までの伝統をさらに生かしながら、開かれた1つの組織として若手の育成にも貢献したいと思っています。

皆様のご支援とご参加を心からお待ちしています。

2011年のWestwood Reunionの紹介

通常は11月の第2金曜日に開催している日本同窓会の年次総会とWestwood Reunionですが、今年はスピーカーと会場の関係で11月25日(金)東京21cクラブにて開催されることになりました。

今年度は10代で起業して大成功を収めた齋藤ウィリアム浩幸さんにご自身の経験と日本での活動について話して頂きます。齋藤さんは

内向きと言われる日本の若者への講義や、日本が元気になるための様々な活動を精力的にされています。日本の素晴らしさと不思議な点の両方をよくご存じで楽しい話が聞けるはずです。ぜひ若い同窓生にも刺激を受けて頂きたいと思います。

また女性スピーカーとして立教大学社会学部教授の阿部珠理さんにご自身の経験やイ

ンディアンと接してきた数々の貴重な体験を話して頂きます。私たちは当たり前のように豊かな現代社会に住んでいます。そうした中で忘れてしまった精神がインディアンの暮らしや言葉に今も深く刻まれているようです。詳細はお二人のスピーカーの自己紹介欄をご覧ください。お誘い合わせの上、ご参加ください。

Westwood Reunionのスピーカー

齋藤ウィリアム浩幸

タイトル：成功の反対は「失敗」ではなくて「何もしないこと」



私はアメリカ、カリフォルニア州で生まれ育ったのですが、両親は生粋の日本人です。10代でIT会社を起業し、のちにマイクロソフト社にビジネスを売却した経験を活かし、現在は世界中を回ってベンチャービジネスのコンテストで審査員を務めたり、ベンチャーキャピタリストとして投資するなどしていますが、今日の私があるのは、アメリカでの教育、またベンチャー企業への理解が深いアメリカの土壌のお陰だと思っています。

そして、アメリカに根ざしている企業への意欲=アントレプレナーシップ、また革新

的な技術開発=イノベーションを祖国である日本においてもっと広めたいという思いから2005年にアメリカから日本に本拠地を移し、日本の行政、政治、また教育現場などで様々な提言をしています。

私がカリフォルニア州の小学校低学年だった時の先生は、10歳にもならない私が無類のメカ好きであることに注目し、私の両親に当時まだ一般的な製品ではなかったコンピュータを買い与えることを勧めました。振り返れば、小学校の先生が私の特性をいち早く見抜き、今日の私を導いたのです。

